



JP59170952

Biblio | Page 1



## INFORMATION PROCESSOR



Patent Number: JP59170952  
Publication date: 1984-09-27  
Inventor(s): SUGIYAMA ITSUMI  
Applicant(s): FUJITSU KK  
Requested Patent: JP59170952  
Application Number: JP19830045179 19830317  
Priority Number(s):  
IPC Classification: G06F11/30  
EC Classification:  
Equivalents:

### Abstract

**PURPOSE:** To perform completely remote control even at the rise of a system or the generation of a fault by connecting monitoring processor with a transmission line when one of systems connected through the transmission line is remotely controlled.

**CONSTITUTION:** When a system SYS-A controls a system SYS-B remotely, a monitoring processor SVP-A controls the SVP-B directly through a CPU in the SYS-A, the transmission line TL and a switch SW. The SVP-B supplies electric power to the SYS-B, and when confirming the normal rise of the SYS-B, turns the shown switch SW to the opposite side to connect the TL with the SYS-B. When the SVP-B detects the generation of a fault in the SYS-B, the SVP-B turns the SW to the shown side and informs the state of the SYS-B to the SYS-A. The SYS-A executes prescribed remote control such as retrial of IPL to the SVP-B.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

CITATION (2)

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A)

昭59-170952

⑫ Int. Cl.<sup>3</sup>  
G 06 F 11/30

識別記号

厅内整理番号  
6913-5B

⑬ 公開 昭和59年(1984)9月27日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑭ 情報処理装置

⑮ 特願 昭58-45179

⑯ 出願 昭58(1983)3月17日

⑰ 発明者 杉山五美

川崎市中原区上小田中1015番地  
富士通株式会社内

⑱ 出願人 富士通株式会社

川崎市中原区上小田中1015番地

⑲ 代理人 弁理士 鈴木栄祐

明細書

1. 発明の名称

情報処理装置

2. 特許請求の範囲

一方の中央処理装置を含むシステムから伝送回線を介して、他方の中央処理装置を含むシステムとの間で情報を伝送し処理する情報処理装置において、他方のシステムにおける監視用プロセッサは常時は自己システムの中央処理装置と接続され、自己システムに障害が発生したことを検出したときは伝送回線と直接接続し、一方のシステムが他方のシステムの監視用プロセッサを介して遠隔制御することを特徴とする情報処理装置。

3. 発明の詳細な説明

(1) 発明の技術分野

本発明は伝送回線を介して他方のシステムの監視用プロセッサを直接制御する情報処理装置に関するもの。

(2) 従来技術と問題点

中央処理装置・入出力装置などで構成されるシ

ステムが伝送回線を介して結合され、情報を伝送し処理する場合、伝送回線の他端のシステムの情報量が少なく専属オペレータを配置することは過剰処置となるような理由があつても、従来はオペレータを専属配置させ、オペレータの操作により監視用プロセッサを介してシステムの立上がりを実行し、次に他のシステムと情報処理を開始するようになっていた。或いは監視用プロセッサの電源回路に時計装置を挿入しておき伝送する情報の有無に関係なく所定時刻に監視用プロセッサの動作を開始させ、監視用プロセッサは次に自己のプログラムに従ってシステムの電源投入、初期プログラムローディング等を実行した。前者では人員の過剰的配置を必要とし、後者では情報量に関係なく所定時刻に立上がって準備するため消費電力などエネルギーを無駄に消費する欠点があった。

(3) 発明の目的

本発明の目的は前述の欠点を改善し、伝送回線を介して他方のシステムの監視用プロセッサを遠隔制御することのできる情報処理装置を提供する

ことにある。

#### (4) 発明の構成

前述の目的を達成するための本発明の構成は、一方の中央処理装置を含むシステムから伝送回線を介して、他方の中央処理装置を含むシステムとの間で情報を伝送し処理する情報処理装置において、他方のシステムにおける監視用プロセッサは常時は自己システムの中央処理装置と接続され、自己システムに障害が発生したことを検出したときは伝送回線と直接接続し、一方のシステムが他方のシステムの監視用プロセッサを介して遠隔制御することである。

#### (5) 発明の実施例

図面は本発明の実施例を示すブロック図である。SYS-Aは中央処理装置、入出力装置などで構成されるシステムAを、SYS-Bは同様なシステムBを示し、SVP-A、SVP-Bは各システムの監視プロセッサ、MDはシステムと伝送回線を接続するモデム、TLは伝送回線、SWはSVP-Bにより制御される開閉スイッチを示して

特開昭59-170952(2)

いる。システムSYS-Bが休止状態に入ったときSVP-BはスイッチSWを図示の側にセットし、SVP-Bの受信部のみを動作可能としておく。システムSYS-AにおいてシステムSYS-Bを遠隔制御するとき、SVP-AはSYS-A内の中央処理装置と伝送回線TLスイッチSWを介し、SVP-Bを直接制御する。SVP-BはシステムSYS-Bに対し電源投入、マイクロプログラムローディング IPL、初期プログラムローディング IPLを順次行う。システムSYS-Bが正常に立ち上ったことを確認したときSVP-BはスイッチSWを図示と反対側に切替え伝送回線TLをシステムSYS-Bと接続させる。システムSYS-AはシステムSYS-Bと直接情報伝送を行うことができる。

次にシステムSYS-Bが動作中障害の発生したことをSVP-Bが検出したとき、SVP-BはスイッチSWを図示の側に切替え、システムSYS-Bの状況をシステムSYS-Aに報告する。SVP-AはSVP-Bに対し IPLの再試行を

指示するなど所定の遠隔制御を行う。

#### (6) 発明の効果

このようにして本発明によると伝送回線を介して接続されているシステムの一方が遠隔制御されるとき、その側の監視プロセッサを伝送回線と直接接続したり切離すように切替え開閉させておき、監視プロセッサを十分に利用させているから、システムの立ち上りのとき、途中障害発生のときも、遠隔制御が完全に行われる。

#### 4. 図面の簡単な説明

図面は本発明の一実施例を示すブロック図である。

SYS-A、SYS-B

-----システムA、システムB

SVP-A、SVP-B…監視プロセッサ

MD…モデム TL…伝送線

SW…開閉スイッチ

特許出願人 富士通株式会社  
代理人 弁理士 鈴木栄祐

